

## 第2回平成22年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会次第

日時 2009年 7月 13日(月)

14時00分～

場所 藤沢市役所新館7階第3会議室

### 1 開会

### 2 確認事項

(1) 審議方針について

(2) 資料について

(3) 会議録署名委員の指名について

### 3 議事

(1) 議題1 平成22年度使用中学校用教科用図書について

(2) 議題2 平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について

(3) 議題3 平成22年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について

### 4 閉会

## 出席委員

- ・廣田 賢一
- ・桑山 光生
- ・林 正行
- ・中野 美昭
- ・飯島 広美
- ・藤村 澄門
- ・新屋敷 正隆
- ・角田 宗夫
- ・渡邊 智
- ・小笹 岐美子
- ・入澤 正樹
- ・塚原 一雄
- ・新井 泰春
- ・伊澤 淳一
- ・山崎 琴美
- ・上條 洋子

## 出席事務局職員

- ・教育長 佐々木 柿己
- ・教育総務課補佐 中山 裕子
- ・教育総務部長 田中 一次
- ・教育指導課指導主事 岡 滝男
- ・教育総務担当部長 村岡 泰孝
- ・教育指導課指導主事 宮谷映美子
- ・政策調整官 林 良雄
- ・教育指導課指導主事 小池 規子
- ・教育総務課参事 茂木 利夫
- ・教育指導課指導主事 笹原 信吾
- ・教育指導課参事 吉田 早苗
- ・教育総務課主任 浅上 修嗣
- ・教育総務課主幹 秋山 曜
- ・教育指導課主幹 上條 茂

## 第2回 平成22年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会 会議録

平成21年7月13日（月）  
新館7階第3会議室 午後2時から

委員長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。会議の開会に先立ちまして、傍聴の皆様にお願いがございます。お手元の藤沢市教科用図書採択審議委員会の傍聴要領に従い、傍聴下さることをお願いいたします。

なお、この会議は公開でございます。審議の内容につきましては、会議録作成の都合上録音させていただきます。

それでは、藤沢市教科用図書採択審議委員会規則第5条2項の規定にあります、「委員の半数以上の出席」要件を満たしておりますので、ただ今より、第2回 平成22年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会を開催いたします。

今回ご審議いただく内容は、議題の1「平成22年度使用中学校用教科用図書について」議題2「平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」議題3「平成22年度使用藤沢市教科用図書に関する審議結果の答申について」の3点でございます。

それでは、審議に先立ち、審議方法の確認をします。

「平成22年度使用中学校用教科用図書採択審議委員会の方針について」ですが、前回の審議委員会で「2番の審議委員会日程」について、3回で提案されましたが、審議の結果、2回となりました。審議方法の変更箇所については事務局より朗読させます。お願いします。

事務局

それでは変更箇所のある、2. 審議委員会日程について読み上げます。皆様の次第の次に綴られております審議方針をご覧になっていただけますでしょうか。次第の次にあります。その2のところ審議委員会日程というところがございません。

それでは、2 審議委員会日程

- (1) 平成22年度使用藤沢市教科用図書採択審議委員会日程
- ア 平成21年6月から7月にかけて平成22年度使用中学校用教科用図書並びに、平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書の審議を2回行う。
  - イ 第1回は、審議方針等を審議する。
  - ウ 第2回は、平成22年度使用中学校用教科用図書ならびに平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書を審議する。以上でございます。

委員長

はい、ありがとうございました。それでは、次に事務局より本日の資料について説明させます。お願いします。

事務局

それでは、まず、はじめに、第1回の審議委員会が終了してから、本日までの間に送付し、本日お持ちいただきました資料についてご説明いたします。

はじめに、県より報告されました「中学校用教科用図書調査研究の結果」です。これは、県の選定審議会のもとにおかれた調査委員会が、調査・研究した結果でありまして、選定審議会を経まして県教育委員会から本市教育委員会へと送付されましたものでございます。

次に、本審議委員会の下におかれまして調査員によって作成されました「中学校用（平成22・23年度使用）社会（歴史的分野）調査資料」でございます。これは、県の通知及び本審議委員会の方針を受けまして、学校教育に関し十分な経験と知識を有するもののうちから教育長が、調査員として5名を任命し、調査研究した結果でございます。結果をまとめたものでございます。なお、今回調査研究に携わりました調査員の氏名等につきましては、この調査資料の最終ページに記載してございます。

次に「平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」です。これは、「平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは

中学校の特別支援学級用教科用図書調査書」を基に、事務局でまとめたものです。

続きまして、本日用意させていただいた資料ですが、1つめは先ほど確認されました「平成22年度使用中学校用教科用図書採択審議委員会の方針」です。先ほど読み上げたものです。

次にサイドテーブル、窓側のサイドテーブルをご覧ください。あちらには、「平成22年度使用教科用図書調査書」「平成22年度使用教科用図書意見書」「平成22年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」と平成22年度藤沢市で使用が予定される「中学校用社会科歴史的分野教科書見本」及び「特別支援教育関係教科用図書見本」が展示してあります。

「平成22年度使用教科用図書調査書」は、各中学校長が自校の教師に調査研究させたもので、各中学校長の責任の下、県の調査研究の観点に沿って、9項目の観点毎に調査研究したものです。「平成22年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」は特別指導学級設置学校長および特別支援学校長が自校の教師に調査研究させたものです。「平成22年度使用教科用図書意見書」は、市民及び保護者向けに各中学校及び市役所において教科書展示会を開催した際にいただいた意見・感想でございますが、事前に委員の方々には見て頂いております。

以上で資料の説明を終わります。

委員長

ありがとうございました。ただ今、資料について説明がございました。なお、資料の中の「平成22年度使用教科用図書意見書」並びに「平成22年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書」につきましてですが、個人情報等の問題がございますので、非公開としたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員  
委員長

結構です。

はい、ありがとうございます。それでは、それ以外先程の

資料等について、なにかご質問はございますでしょうか。

では無いようですので、議事に入ります。本日の次第をご覧ください。

まず、はじめに、「藤沢市審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づきまして、会議録署名委員を指名いたします。私の他に塚原委員をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

塚原委員 結構です。

委員長 はい、お願いします。

それでは、議題の1「平成22年度使用藤沢市立中学校用教科用図書について」審議してまいります。

事務局、説明の方、お願いいたします。

事務局 今年度は平成22年度使用中学校教科用図書の採択替えの年に当たっております。しかし、学習指導要領の改訂に伴い、平成22年度から使用する中学校の教科書については、新たに検定を経たものが社会科の歴史的分野からの1者のみということですので。それでは、「平成22年度使用藤沢市立中学校用教科用図書について」ご審議くださいますよう、よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。従来であれば、検定を受けた教科書のすべてにおいて1つ1つ調査研究をし、それぞれの特徴をまとめ、その上で、教科及び種目ごとの審議を行うべきですが、今回は社会科の歴史的分野以外、新たに検定を受けた教科書が無いということですので。事務を簡略化できるということですので。

したがって、社会科の歴史的分野以外については、審議をしないということよろしいでしょうか。

各委員 結構です

委員長                    はい、ありがとうございます。

それでは、これから社会科の歴史的分野について審議して参りたいと思いますが、審議の進行について、何かご意見がありますでしょうか。

はい、小笹委員。

小笹委員                市の方でまとめられた、調査資料を見ますと大きく3つの項目について整理がされております。県が行った調査の9ではちょっと数が多いので、この3つ、大まかめの3項目を意識しながら、それぞれのご発言をいただければいかがでしょうか。

委員長                    はい、先ほど説明された、市の調査員による「中学校用（平成22・23年度使用）社会（歴史的分野）調査資料」という、ここの観点3つをもとに進めてはどうかというご意見ですが、いかがでしょうか。

各委員                    結構です。

委員長                    はい、それでは、その3点を踏まえながらご意見を伺えればと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、各委員の方々からご意見をいただきたいと思えます。

はい、中野委員。

中野委員                私は、9者ですね、中学校用歴史的分野の教科用図書を検討してきました。その中で「日本文教出版 中学社会 歴史的分野」及び「清水書院日本の歴史と世界」の2者の教科用図書に関して「学習指導要領との関連」という視点に基づき意見を述べさせていただきます。

まず、日本文教出版の教科用図書について述べさせていただきます。本教科用図書の44ページ、168ページにです





ますが、生徒が自分の住んでいる地域の歴史に興味を持って、調べていく際に、その参考となる事柄が、各時代に関連して載っていて、素晴らしいと思いました。また、生涯学習の観点から見ても「学び方を学ぶ」ということが今大事と言われているんですけれども、こうした観点で見ても、この教科書の中の「歴史スキルアップ」という名で、そういう場がしっかりとできていて良いなというふうに思いました。具体的には、フィールド学習や図書館利用等の歴史事象への迫り方のスキルとか、インターネット等を使った調べ方のスキルであるとか、レポート作りの方法について、あるいはプレゼンテーション・ソフトを活用する方法などの表現方法のスキル、等豊富な内容で感心しました。

次に帝国書院ですが、各時代の冒頭に「タイムスリップ」という、大きなイラストとか錦絵とかあるいは写真が載っているコーナーがありまして、その時代をイメージしたり、教材として活用しやすくなってるなというように思います。また、資料は、この部分の引用であるとか、出典はここであるとか、はっきりとしていて、また多岐にわたっているのも、好感が持てました。1つの歴史事象をめぐって、いろいろな立場から考察することができて、良いなと思いました。

次に自由社ですけれども、編集者の方が書いています、あの編集趣意書、編集趣意が書いてあるわけですけども、それを読みましてところ「歴史上の登場人物が男性に偏りがちな点を配慮し、歴史が進む上に、女性の存在があったという視点を大切に編集している」という趣旨の説明があり、印象的に私自身は思いました。その具体の1つとして、調査資料の方にもありましたけれども、各章の扉の方で、そのページで女性の当時の姿、服装ですね、を紹介しているようなものがあるのだなというふうに思いました。以上です。

委員長

はい、ありがとうございました。その他いかがでしょうか。  
はい、藤村委員。

藤村委員

私はですね、学習指導要領の目標のですね、次の4つの観点を念頭において調査をしてみました。1つ目はですね文化・伝統について考えさせ、自覚が深められること。2つ目は人物の記述の数量と歴史上の人々の努力に気付かせること。3つ目は文化・生活の記述から国際社会への協調・平和を養うことができること。そして4つ目は提示された資料を活用する力を育てられる内容であるかどうかそういう観点で調査しました。

全体を見ますとですね、教育出版社がこれらの4観点を満たしているのではないかと思います。

特にですね單元ごとに、考える学習への授業づくりの工夫が行われて、これらの学習が今後の発展学習への手助けになるものではないかと思いました。

またですね、扶桑社は歴史全体の流れとその時代背景をわかりやすく記述しているように思われました。そしてあの歴史上活躍した人物や文化遺産の写真等を大きく、また数多く掲載し、歴史に対する興味関心を持たせて、歴史の流れを分かり易くつかむようにも工夫されているかなと思いました。

以上でございます。

委員長

はい、ありがとうございました。引き続きお願いします。  
はい、小笹委員。

小笹委員

項目の1番目について、主にお話しさせてください。

まず、帝国書院でございますが、この教科書は非常に略地図を各所に用いております。地理と歴史の並行学習を1・2年生でしていくことを考えますと、空間的な把握を歴史の学習の中でも大事に扱うという要素は、非常に重要なかなという風に思いますので、この略地図を生かした教科書というのは、非常におもしろいのではないかなと思います。

それから、東京書籍の教科書ですけれども、各ページ、各項

目の最初に記載し、掲載されている写真・図版が非常に大きく印象的に配置されております。その時代全体を象徴するようなものを選んでいただいているのだと思いますけれども、これが、導入の部分として非常に使いやすいところがあるかなと思いました。以上でございます。

委員長                    はい、ありがとうございます。飯島委員。

飯島委員                私の方は、調査資料のちょうど3つの真ん中ですね。構成・分量・装丁・表記・表現。特にですけれども、資料や写真、それから歴史地図、イラストの面から発言をしたいと思えます。

1点目は、「日文」「中学社会歴史的分野」の教科書ですけれども、資料やイラストなどの色調がたいへん落ち着いている。それから、大きさについても適度なものがページにまとめられているということが、特色だと思います。

また、同じく「日文」ですけれども、この調査資料で調査員さんも注目しているところですが、見開き2ページごとに、そこに記述してある出来事が、何世紀に起こったかが分かるような表記があって、100年単位で時代を捉えやすく、生徒が捉えやすくなるための工夫がしてありました。

次にですね、自由社の教科書についてです。これは皆さんもそういう印象を受けたと思いますけれども、扶桑社のものと大変内容や記述が、よく似ていました。ただ、自由社のものは、図版にですね、詳しい説明がついている、そういう特徴、特色があると思えました。以上です。

委員長                    はい、ありがとうございました。はい、林委員。

林委員                    私は、構成・表記・表現等について、真ん中の項目について、2つの教科書について、意見を述べさせていただきます。まず、東書の「新編新しい社会 歴史」は、各所に「歴史スキルアップ」の、が配置され、総合的な学習の取組にも活

用可能な項目が多く見られます。歴史の学習だけにとどまらず発展性のある教材提示として興味を持ちました。なかでも、「深めよう」の項目には歴史的事象の裏舞台を知る手がかりになるような記述が多く見られました。こどもたちの興味関心を引くものとなっている点がよいと思いました。

また、各章ごとのまとめに観点別評価に対応した構成が成されていることと、見開き2ページが1単位時間として構成されており、1時間の学習ごとに学習の課題が設定されているので、先生方にとっても生徒にとっても使い勝手がよいものだと感じました。

次に、扶桑社の「中学改訂版 新しい歴史教科書」についてですが、写真資料が多いということ、かつ、写真が非常に見やすいという印象を持ちました。また「人物コラム」「読みコラム」が適切に配置されていて、興味を持たせる構成になっているのではないかと思います。

委員長                    はい、ありがとうございます。渡邊委員。

渡邊委員                    東書ですが、装丁・表記・表現の視点で見ますと、例えば、5ページにあるように、人物をイラストで表した年表を設けております。生徒がその時代、時代を概観できて、親しみやすく、興味をもって学習できるように工夫されていると思います。以上です。

委員長                    はい、ありがとう。はい、入澤委員。

入澤委員                    地域の特性との関連という観点で、1点お話をさせていただきます。中野委員のご発言の中にもあったんですけども、清水書院の教科書に「身近な地域を調べよう」という教材がありまして、調査資料の記述にもあるんですけども、生徒の観点・視点から疑問を用意して、そこから発展させているというところがあって、自分の力で調べて、それを理解するための動機付けになるという感じを受けました。

それから、調べ学習を具体的に進めていく上で、非常に手だてがわかりやすく示されていると感じました。以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。塚原委員。

塚原委員

それでは、私はですね、ちょっと戻ってしまおうんですが、構成・表記・表現という点で学習活動とからめて、このあたりを、よく工夫されているなあと感じた2者についてお話しさせていただきたいと思います。

1者目はですね、「日本文教出版」でしょうか。「中学社会 歴史的分野」でございます。

説明の文章を読みますと、大変平明で、わかりやすさがあるな。同時にですね、内容に関連する人物の写真・肖像画等を掲載することによって、内容がより具体的なものになり、学習する生徒たちにイメージしやすいものとなっているのではないかと思われました。

また、紙面構成としてもですね、ページの端に示された世紀は、ちょうどテーマと合わせた位置に置かれている。そうすると、振り返りや確認のためのインデックスとしても活用できるな。そこに示された単元の課題とともに、イラストやページ下等にも学習の視点や課題が示されるなど、問題解決的な学習に取り組めるような構成となっているんだな、というふうに思いました。

2つ目はですね、日本書籍新社の「わたしたちの中学社会」でございます。この教科書においては、各章のはじめに、その章で扱う時代の年表が掲載されています。そして、時代のイメージとともに「問い」を設けて、学習課題への動機づけがなされるような、しかけになっています。

それに対応して、章末には「学習を整理しよう」というかたちで学習を振り返り、歴史的な流れとともに、章末には、地理的な把握、また、外国との関連等、学習のまとめ方の工夫もなされています。本文中に示された学習課題とともに、「さらに深める学習」のコーナーを設けるなど、生徒自らが

自分なりの課題を見いだして、追究することを促す構成となっているのではないかというふうに感じました。以上でございます。

委員長                    はい、ありがとうございます。角田委員。

角田委員                    本市の調査資料の3観点に即してというお話だったので、私は、まず1つ目の観点としては、指導要領との関連ということなんですが、目標の中に、身近な地域の歴史や、具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高めるとあります。先ほど何人かの委員の方からもそういうご発言があったようですが、それと、また地域等の特性との関連というこの2観点に即して、2者を取り上げてみたいと思います。

まず、東京書籍の新編「新しい社会 歴史」についてですが、各章の中に「わたしたち歴史探検隊」というコーナーがあって、生徒たちが実際に身近な地域に出て調べ学習を行い、それをいろいろな形でまとめていくよう促されています。特にこの教科書では、132ページから4ページにわたり、横浜での調査例が載せられているようです。私のおります学校もそうですが、本市の市内の中学校等でも横浜散策等を行っているところが結構多いのではないのかなと思うんですが、そういった、先ほども総合学習に触れられた委員の方おられましたけれども、歴史的な視点からの学習、いわゆる合科的な学習にもとても役立つのではないかなと考えました。

次に帝国書院の「社会科 中学生の歴史」についてですが、この教科書では、各章末に「地域調査に出かけよう」というページが1ページですが設けられています。そこでは生徒たちが、調査をしている様子やまとめられたものがコンパクトに載せられており、地域調べの方法を学ぶのに適しているのではないかなと思いました。また、ここでも横浜が取り上げられております。以上です。

委員長                    はい、ありがとうございました。新井委員。

新井委員

表記表現の観点から、教科書見させていただきました。9者中5つの会社が、常体表現といいますか、文末表現を常体表現にしているわけですね。その点で言えば、大変歯切れがいいという感じを受けました。

清水・日文・扶桑社・日新・自由社。この5者が、常体で表現されていると。この5者の中で清水書院の教科書がテーマごとに到達度目標を設定して、それを生徒に疑問形として投げかける。その点、1時間の授業で、何を学ぶかが子どもたちにとっては、一目で分かるんではないか、そのような工夫があり、生徒も目標がつかみやすいのではないかなど、こんなふうには思いました。

それから、清水書院の教科書については、地図の数、これは分布図を含むということですが、2番目に多いという特徴も、この教科書にはあるかなどそんなふうには思いました。

以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。はい、渡邊委員。

渡邊委員

先ほど、角田委員のほうから話がありました、本市の生徒の学習実態ということで、日新の教科書を見ますと、例えば、6ページにあるように、章の最初に「地域の歴史を調べよう」というページが設けられています。調査するための手がかりとなる資料が紹介されていて、本市の子どもたちが、主体的に地域の歴史についての調べる学習が展開しやすいように工夫されていると思います。以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。他、はい、桑山委員。

桑山委員

同じく地域性という観点ですけれども、先ほどの角田委員、横浜でしたけれども。私は、教育出版ですけれども、こちらは、鎌倉の円覚寺を題材にして調べ学習についての記載があります。

「ご近所調査隊」というところなんですけれども、他にも、モンゴルの力士がですね、お参りして話題になった、藤沢の片瀬の元の使者のお墓や、あと復元された箱根の関所などが写真で掲載されていたりしております。比較的子どもの身近なものが紹介されているので、興味を持って学習に取り組めるんじゃないかなと感じました。

それから後、編集の工夫になるのか構成になるのかというところなんですけれども、日本文教出版の「日本の歩みと世界」という教科書ですけれども、各章の中で、さらに節っていう細かい分け方がある、その節ごとに「学習の課題」とか「課題の追究」ということが、がきちんと明示されています。章の終わりには、「学習のまとめの課題」「まとめと課題」ですね。ということで、「学習を振り返る視点」というものももうけられていて、学習を進めていく上では、その基本な押さえが意識されているというように思いました。

それから、「地域の歴史調査」というページでは、調べて学ぶという、そういう学習方法がていねいに解説されおりますし、また、あの「タイムトラベル」というコーナーでは、様々な角度から問いを用意してありまして、学習に対する動機付けとか、方向付けとかっていうことが親切になされているなという感想を持ちました。以上です。

委員長                    はい、ありがとうございます。林委員。

林委員                    3項目めの本市の生徒との関連・実態等についてですが、日文の「中学の社会科歴史・日本の歩みと世界」では、各章のまとめに「見て・感じてつかむ歴史」これが配置されております。その中で、写真が多く使われており、興味が持てる内容になっており、自分で身につけた学習内容を自分たちの地域に応用できる構成になっていて、藤沢の歴史学習の勉強にも役立つ内容であると思いました。

また、各章ごとに、「女性と子どもの歴史」が配置され、その時代の女性、子どもの生活について記載されていて、興



味を持つ子どもも多いのではないかと思います。

委員長            はい、ありがとうございます。そのほか、いかがですか。  
他よろしいですか。  
今、学校関係者ばかりですけど、保護者で委員の方で、な  
にかありますか。よろしいですか。

保護者委員        結構です。

委員長            はい、その他、何かありますでしょうか。はい、新井委員。

新井委員           現在、東書の教科書が採択されて使われていると思うんで  
すけども、その東書を使われている、歴史的分野の先生方の  
ね、なんかご意見・感想等がもしおありでしたらば、聞かせ  
ていただければと思いますけれども、よろしくお願ひします。

委員長            いま、新井委員のほうから、東京書籍の教科書について、  
学校現場ではどのように考えているのか、というようなご質  
問がありましたが、いかがでしょうか。どなたか。  
はい、小笹委員。

小笹委員           本校の社会科の教員とも話をして参りましたけれども、そ  
れぞれの教科書でだいたい見開き2ページで1時間という構  
成は変わらないと思います。教科書のそれぞれの時間の目標  
というようなものが、書かれて、短い言葉で書かれている、  
これも多いんですけれども。東書の場合、中学生が出てきて、  
ふきだしのかたちで、疑問ですとかそれから、課題設定を語  
っているというような形に作られています。これを読んでい  
きますと、必ずしもその指導する側が、目標として置きたい  
レベルの言葉だけではなくて、そんなに歴史が好きでない子  
どもでも、この写真見たら、こういう疑問を持つかな、とい  
うようなレベルの言葉もポツと入っています。生徒の視点で  
のそういう言葉というのが、案外子どもたちにとっては、フ

ッところ引きつけられるところがある。導入に非常に役立っているというような、話をしておりました。

以上です。

委員長                    はい、ありがとうございました。よろしいですか。

新井委員                はい。

委員長                    はい。その他何かございますでしょうか。

はい、では、他にないようでしたら、議題の1「平成22年度使用藤沢市立中学校用教科用図書について」審議を終了したいと思えます。

続きまして、議題の2「平成22年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別指導学級用教科用図書について」審議して参ります。

事務局より資料について説明をさせます。

事務局、よろしくお願ひします。

事務局                    資料をご説明させていただく前に、第1回審議委員会から本日までの調査研究の流れについてまずご説明いたします。今回ご審議いただく教科用図書は、学校教育法附則第9条に規定された教科用図書で、特別支援教育に関する教科書については、児童生徒の実態に合った「一般図書」を充てても良いとされているものでございます。現在、全国の義務教育諸学校で教科書として使用しております一般図書のうち、比較的採択数の多いもので、かつ発行者が平成22年度におきましても引き続き、当該図書の発行・供給を予定しているものを、文部科学省初等中等教育局教科書課がまとめました、「平成22年度用一般図書一覧」というものがございます。これにつきましては、第1回審議委員会の際に皆様にはお配りさせていただきました

この一覧に載っている図書の全てを展示いたしました、「教科用図書研究会」が、先日5月11日から15日まで、

県立総合教育センター善行庁舎で開催されました。

この研究会におきまして、白浜養護学校と特別指導学級の先生方が実際に展示されている図書を見ながら、在籍する児童生徒の実態や、次年度入学する児童生徒を想定いたしまして、調査研究を行いました。その結果、平成22年度使用に適すると思われる一般図書についての報告として「教科用図書調査書」が提出されております。

それでは、資料の方をご説明させていただきます。

「平成22年度使用特別支援学校及び特別支援学級用教科用図書調査書まとめ」をご覧ください。

このまとめの方には、附則第9条による図書を5つに分けて表記してあります。

1 ページをお開きください。一覧表の一番上のところをご覧ください。

まず、1つ目は、「新」の文字を記載したものでございます。これは、今回新たに調査研究をした結果、教科書としてふさわしいとして出された新規図書でございます。

2つ目は、四角の記号を記載したものでございますが、これは、昨年度採択された図書で、本年度の調査研究の結果、複数の種目において教科書としてふさわしいとされた図書でございます。

なお、新規図書と複数種目で希望のあった図書を一覧表にして、まとめたものが後ろから3枚目、資料1としてお示しさせていただきましたのでこちらも参考になさってください。それから、一般図書を採択希望する場合の留意事項につきまして、一番最後のページに資料3として記載させていただきました。

3つ目は、白丸の記号を記載したものでございます。これは「平成22年度用一般図書一覧」で不掲載になったものですが、藤沢市としましては継続希望したいということであがっている図書でございます。今年度についてはNo.5の「音楽・器楽」No.7の「家庭・職業家庭」No.9「英語」のところに該当の図書がございます。

4つ目は、黒丸の印でございます。これは「平成22年度  
用一般図書一覧」で不掲載となった図書で、今年度継続希望  
のない図書でございますが、本市としましては、該当図書は  
ございません。

最後に何も印のない無印のものでございます。これがほと  
んどたくさんございますが、これは昨年度採択され、本年度  
も教科書としてふさわしいと調査された図書です。

続きまして一覧表の最後のページをご覧ください。一覧表最  
後No.9英語というところの下のところでございますが、今お  
話しをいたしました一般図書の他に「平成22年度使用藤沢  
市立小学校用教科用図書」「平成22年度使用藤沢市立中学  
校用教科用図書」「特別支援学校小・中学部用文部科学省著  
作教科用図書」というものがございます。なお、「特別支援  
学校小・中学部用文部科学省著作教科用図書」につきまして  
は、資料2としてお示ししました。これは、前回の審議委員  
会で資料として「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録  
（平成22年度使用）」をお渡しいたしました。この中で  
知的障害者用としてあげている図書でございます。この本は  
いわゆる☆印本とよばれているものでございます。

以上で資料の説明を終わります。

委員長

ただ今、資料について説明がございました。資料等につつま  
して、何かご質問はございますでしょうか。

それでは無いようですので、議事に入りたいと思います。

新規の図書については、本審議委員会が初めて審議する場  
になっております。したがって慎重な審議をお願いした  
いと考えます。どうぞよろしくお願いたします。

なお、審議の進め方について何かご意見はございますでし  
ょうか。はい、入澤委員。

入澤委員

私自身が特別支援教育に、いわゆる昔の特殊教育ですけれ  
ども、長く携わってきた者として、特別支援学校や特別支援

学級で使用される教科書というのは、児童生徒の特徴ですとか発達段階に基づいて決められていくということがありますので、できるだけその幅を広く用意してあげることが必要かなというふうに感じているところです。

今事務局の説明にあった中に、「○」印のもので不掲載になったものがあるということですが、これについても子どもの実態を知っている学校現場の先生方が是非使いたいという希望があるということですので、教科書として使用できる方向で考えてあげられればなと思っております。それから「□」の印については、複数の教科でということですが、これも1つの本に1教科ということではなく、子どもの実態によって別の教科で使うということは十分考えられることですので、そういう意味でも是非教科書としての使用できるような方向で考えてかれればなというふうに思っているところです。

委員長                    ありがとうございます。その他は何かありますでしょうか。

それでは、ただいまのご意見から、これからの審議についてですけれども、新規の図書についてだけ、審議していくということによろしいでしょうか。

各委員                    結構です。

委員長                    では、そうさせていただきます。それでは新規図書についてですけれども、No1の「国語・書写」からNo4の「生活・理科」に入っております。これをまとめて審議してよろしいでしょうか。

各委員                    結構です。

委員長                    それでは、No.1からNo.4までの新規図書について、ご意見をうかがいたいと思います。よろしくお願いします。

はい、では藤村委員。

藤村委員

No.2の「算数・数学」についてですけれども調査しました。図書コード 623、628、630 ですけれども、くもん出版の小学ドリル算数のシリーズ3冊です。このドリルは、1枚の表裏に見やすい配列で問題が表記されています。

子どもの理解度や状況に合わせて、計算や数の概念、図形、数量関係の内容をくり返し練習することで、算数力が身につくように工夫されていると感じました。

基礎力の力を確かめるページと、難しい問題にチャレンジするページは全体の2割弱でして、ほとんどのページが力をつけるために構成されているように思いました。このドリルを使った学習を通して、算数の問題を解く要領と算数に対する自信が、培われていくということが想定されました。

ただ、切り離して使用した場合の後始末が気になりました。パンチで穴を開けてですね、ファイルに綴じ込むだけで問題ないと思います。そのような工夫が必要かなと思いました。以上です。

委員長

ありがとうございました。角田委員。

角田委員

No.4の「生活・理科」、今回の新規は一冊だけですけれども、学習研究社の『はっけんずかん・どうぶつ』図書コードC04、これについて私の方から述べさせていただきます。

これは、児童生徒が、動物園や水族館で、そういったところで出会うであろう動物たちを、イラストや写真を使って、それぞれの住んでいる場所や種類に分けて、見開き2ページで構成されています。特にイラストのページは、動物の生態を楽しく学べるように動物の吹き出しをつけてあったり、その動物の描いてあるその部分だけをめくって、その生態を確かめたりすることができるようになっています。また、最後のページにはそういった動物園や水族館ではなくて、身近なペットの代表であるイヌとネコを、これもちゃんと最後にフォローされていて、とても子どもたちが楽しみながら学べるようなものになっているのではないかなと思っています。以上です。

委員長                    ありがとうございます。他に、はい、中野委員。

中野委員                私は、新規一覧のNo.3「生活・地図・社会」の分野から「草思社」の「考える力がつく子ども地図帳<日本>」について意見を述べさせていただきます。

この本を見てみますと、まず子どもたちの興味関心を引きつけるために、随所に非常に楽しい夢のあるイラストや工夫が満載されております。また、最初に地形図の見方を子どもたちのレベルにあったように丁寧に解説してあります。そのような編集・記載が工夫されている。その結果、子どもたちに地図帳の使い方が非常によく分かると、それと共に子どもたちに地図を見ているんなことを考える力を育てる事も可能になっております。上記の点により教科書用図書として適切であると考えました。以上です。

委員長                    はい、ありがとうございます。では、入澤委員。

入澤委員                No.1の「国語・書写」についてですが、くもん出版のドリルが随分あがっているみたいなんですけれども、くもん出版のものについては、いずれも系統性とかスモールステップとかという考え方で構成されている特徴がありまして、漢字にしても、ことばにしても、文章の力にしても、それぞれの獲得の段階に応じて学習させるとか、反復して定着させるとかというようなことを考えたときには、優れた構成になっていると感じました。

それから、図書コードB01「ミーミとクークのえほん ミーミとクークのあか・あお・きいろ」、この本は、「図工・美術」の方でも教科書としてあがっているんですけども、単純化された色と形で、非常に焦点の定まった適切な視覚刺激になっていまして、色や形を認識したり弁別したりということが、ことばの力の基礎になるということを考えれば、その発達段階の子どもにとっては、国語の教科書としても適しているかなと感じました。

委員長                    ありがとうございます。つぎに、はい、塚原委員。

塚原委員                今、入澤委員さんがおっしゃったところと重なると思うんですけど、「ミーミとクークのえほん」はですね、書写も含めた文字指導、語彙指導、それから音読、さまざまな多様な活動が可能だろうと、さらには算数・数学、そして図工・美術にも応用できるということから考えると、国語科においてもいい図書であるというふうにいえるのかなと思います。

それから私も入澤委員と同じような思いがございまして、子どもたちの実情を一番よく知っている先生方、たぶん一人一人の子どもたちを想定されての図書選定だと思いますので、基本的には先生方の願いを尊重したいなと思っています。

委員長                    ありがとうございます。飯島委員。

飯島委員                資料1を見てもらうとわかりますように、やはり入澤委員、それから藤村委員がおっしゃっていましたが、ドリルです。国語や算数・数学でドリル教材の希望がすごく多いんですね。本校には特別支援学級はありませんけれども、教頭の方に学級設置校にいまして、授業をよく見学をしました。みんなドリルを持っていて、障害の程度に合わせてドリルをやっている、ドリル教材はとっても好きで一生懸命取り組みます。同じことを繰り返してやることによって、1つ1つ能力的な発達ができているというふうに感じました。一年間を通してものすごく学力がついていくなという感じを受けています。先生方がドリル教材の希望が多く出ているというのは、そういうところからきているのではないのでしょうか。

それから、No.3の「生活・地図・社会」、草思社の「子ども地図帳」、これは、中野委員の方でお話をしましたので、私は、その下に書かれています、評論社C01、ピーターズピアアの絵本1「せかいのひとびと」ですけども、大変カラフルな一般図書でございます。私が見ただけで引き込まれるということですので、こどもたちがこれを手にとったら、



どんなふうに喜ぶだろうかというような顔が思い浮かぶような感じです。子どもたちは身近なことについては直接体験から知ることができるんですけども、世界の人々についてはなかなかすぐにはわかりにくいということがありますので、絵の形で世界に人たちの民族・風習・言語・文化、そういうのを理解するということは、興味を持たせつつ、世界にはいろんな人たちがいるということを理解してもらうのには適しているんじゃないかなというふうに感じました。

委員長                    その他いかがでしょうか。

他に意見がないようですので、議題２「平成２２年度使用特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書について」の審議は、ここまでとしたいと思います。

委員長                    それでは、引き続き、議題３「平成２２年度使用藤沢市立学校の教科用図書に関する審議結果の答申について」の審議を行いたいと思います。

社会科の歴史的分野以外の平成２２年度使用中学校用教科用図書の答申につきましては、平成１８年度使用中学校用教科用図書の審議結果を持って充てることでよろしいでしょうか。

各委員                    結構です。

委員長                    次に、中学校用社会科の歴史的分野の教科用図書ならびに特別支援学校及び小学校若しくは中学校の特別支援学級用教科用図書につきましては今回の会議録をもって答申とするということよろしいでしょうか。

各委員                    結構です。

委員長

それでは、議題3については審議を終了いたします。  
これで、予定された議題に関する審議は終わりましたが、  
全体を通して、委員の皆様から、何かございますでしょうか。

それでは事務局から何かありますでしょうか。

事務局

それでは、事務局といたしましては、今後、今回の会議録  
を作成いたしまして、署名委員にご確認をしていただきます。  
その後、審議委員長から教育委員長への答申を行うことにな  
りますので、よろしく申し上げます。以上でございます。

委員長

それでは、これをもちまして、全ての審議を終了いたしま  
したので、「第2回平成22年度使用藤沢市教科用図書採択審  
議委員会」を閉会いたしたいと思っております。ありがとうございました。

この会議の結果の記載に相違ないことを、確認する。

署名委員

廣田 賢一                      塚原 一雄